創刊50周年特別号

喜びのタネまき新聞

50年分のラブレター

喜びのタネまき新聞 50年の歩み

1971〜2021

あんなことやこんなこと、いろいろあった50年。
皆様と一緒に作り続けてきた「喜びのタネまき新聞」は、
時代に合わせて進化し続けています。
その移り変わりを、ダスキンの歴史とともにご覧ください。

1963年 ダスキン創業
1964年 ホームダスキン誕生
1965年 ホームダスキンモップ誕生
1970年 ミスタードーナツ事業創業
1971年 喜びのタネまき新聞創刊
ミスタードーナツ第1号店が大阪府箕面市にオープン
1973年 お便りコーナー〝ほほえみのひろば〟が登場
ミスタードーナツ、フレンチクルーラーを発売
1975年 ミスタードーナツ、オールドファッションを発売
1979年 喜びのタネまき新聞100号発刊
1982年 台所用スポンジ発売
1988年 喜びのタネまき新聞200号発刊
1991年 紫色のモップ、フェディシリーズ発売
きんさん・ぎんさんを起用したテレビCMを放映
1993年 新聞の判型がタブロイド判に変更
1995年 喜びのタネまき新聞300号発刊
2003年 喜びのタネまき新聞400号発刊
ミスタードーナツ、ポン・デ・リングを発売
2004年 判型が創刊当時の形に戻る
2011年 喜びのタネまき新聞500号発刊
2012年 創刊40周年記念書籍「ほほえみのひろば」を発刊
2014年 おそうじベーシック3が登場
2015年 ダスキンミュージアムがオープン
2018年 表紙の風景画シリーズが始まる
ダスキン創業55周年
2020年 ミスタードーナツ事業創業50周年
2021年 喜びのタネまき新聞600号発刊
喜びのタネまき新聞創刊50周年

お客様へのラブレターがはじまります！

じぶん年表

作ってみよう！

思い出の出来事を書き込んで、オリジナルの年表を作ってみましょう。
あなたの歴史がつまった、保存版になるはずです。

1970年代 1970年 大阪万博開催
1980年代
1988年 青函トンネル開通
1989年 元号が「昭和」から「平成」に変わる
1990年代
1998年 長野オリンピック開催
2000年代 2002年 サッカーワールドカップ日韓大会開催
2010年代 2012年 東京スカイツリー開業
2019年 元号が「平成」から「令和」に変わる
2020年代

［記入例］ 長男が産まれる！

喜びのタネまき新聞と私

50年分のラブレター

since 1971

創刊50周年を記念したテーマで、
たくさんのラブレターをお寄せいただきました。
感謝の気持ちを込めて、ご紹介いたします。

ずっと変わらず温かい

兵庫県尼崎市　藤井 友子さん

高校生のころ、学校から帰宅して、玄関で黄色いモップの下に隠れた新聞を見つけるとワクワクしました。大急ぎで制服を着替えて新聞を手に取ると、どのページを読んでも幸せな気持ちになれたのを今でも覚えています。親元を離れて、結婚、出産、子育て…そして母の介護のため30年ぶりに実家に戻ってきました。

するとある日、台所用スポンジの下に置かれた新聞を発見。懐かしく手に取ると、昔と変わらない温かな記事に心が和みました。なんだか「おかえり」と言ってくれたようで、うれしかったです。

母との思い出

北海道斜里郡　示村 冨士子さん

352号で、亡き母のことを書いた私の投稿が掲載されました。自分の文章が活字になった喜びに加え、姉妹や知人から「ハツノばあちゃんの記事を読んだよ」と声をかけてもらい、母の思い出を共有できてうれしかったです。

その気持ちは20年以上経った今でも色あせず、大切な宝物の思い出です。

心が元気になる

静岡県浜松市　高林 知子さん

コロナ禍で心が疲れてきたある時、ふと、喜びのタネまき新聞のページをめくってみました。すると、心がほっこり。そうそう、この感じ! 心が元気になる新聞だった!

仕事や子育てに追われてしばらく離れていましたが、また読み始めようと思います。

故郷の景色

福島県福島市　大峰 千枝さん

以前、ほほえみのひろばで千葉県君津市の方のお便りを読んだ瞬間、故郷である房総の潮風と花畑が目に浮かびました。望郷の念にかられ、健脚なうちに海沿いを歩く旅をしようと決意。全国からさまざまなお便りが紹介されているので、いつも楽しみです。

大切な言葉

長野県飯田市　大森 三和子さん

クローゼットの奥から出てきた、水色の宝箱。そのなかには、子どもたちの作文などと一緒に喜びのタネまき新聞が1部入っていました。「そうそう、この社長さんの言葉に勇気づけられたんだっけ」と、当時のことが鮮明に思い出されました。タイトルは「心の持ちよう」。どんなこともプラスに考えていこう、というお話でした。

「また壁にぶつかった時に、この箱を開けよう」と、今も大切にしまっています。

感動のおすそわけ

香川県さぬき市　秋友 京子さん

30年前から読んでいる、小さな新聞。読んでいるとうれしくなったり、一人で拍手を送ったり、ホロリとしたり。いつも感動のおすそわけをもらっています。

ご縁に感謝

島根県鹿足郡　沖田 喜代子さん

ご近所のご夫婦が「これ、読んでみんさい。心が優しくなれるから」と勧めてくれた、喜びのタネまき新聞。その時から、毎月楽しみにしています。落ち込んだ時も、この新聞を読むと明るい気持ちになれるんです。

ご縁をつないでくれたご夫婦に感謝しながら、これからも読み続けたいと思います。

いい子に育ったね

愛知県豊橋市　横井 よしゑさん

“当時5歳だった息子が「命をかけるってどういうこと?」と聞いてきたので、私は「お母さんは命をかけてあなたたちを産んだんだよ。だから、いい子になってね」と答えました。すると翌日、突然息子が「お母さん、ぼくいい子になるよ!」と宣言したのです”。

この話は昔、喜びのタネまき新聞で紹介された私の投稿文。古いアルバムを整理していると、セピア色になった新聞が出てきたのです。

あれから40年余り。息子は今、女の子の優しいパパとして頑張っています。

可愛い写真にほっこり

福岡県北九州市　村瀬 さとみさん

20年近く前、生後11ヶ月だった娘の写真が紙面で紹介されました。すると、思っていた以上にたくさんの方から「見たよ」と声をかけていただき、反響の大きさに驚いたものです。娘はもう大学生になりましたが、今でも実家に連れて帰ると「あの赤ちゃんが大きくなって!」と、覚えてくれている人もいます。

毎号みてもらお! のコーナーで可愛い写真を見るたびに、幼かったころの娘の姿と重なって、ほほえましくなっています。

社長さんの言葉に共感

石川県小松市　義本 高明さん

社長さんや創業者の言葉を読むと、懸命に働いていた現役時代の思い出と重なることもしばしば。いろんな思いをかみしめながら、楽しく読んでいます。

どの記事も面白い

三重県多気郡　中西 幸子さん

私の手元には509号からの新聞が残っています。ほほえみのひろばを読んで笑顔になったり、目頭が熱くなったり。旅した気分にしてくれる手仕事特集や、飛田さんのお料理も参考にしています。

妻の楽しみ

新潟県見附市　藤田 宏栄さん

妻の遺品を整理していたら、本棚のなかから何やら分厚いつづりを見つけました。手に取ってみると、それは喜びのタネまき新聞の束。その瞬間、いつも楽しそうに新聞を読んでいた妻の姿がよみがえりました。以来、私も新しくもらった号をつづっています。

懐かしい光景

東京都小平市　小倉 節子さん

581号の表紙を見た途端、息をのみました。胸がキュンとなって、ほんわかとして…。そこに描かれていたのは、愛知県にある五条川の春景色。私の子どもたちが産まれ、たくさんの喜びと出会いをくれた地です。表紙に描かれた、満開の桜と鯉のぼりの糊落としの光景は、毎年家族や友だちと見に行った景色でした。

大切な記憶を呼び起こしてくれた581号は、今も我が家の永久保存版です。

小さな幸せ探し

大阪府枚方市　河口 智子さん

いつもほほえみのひろばを読むと優しい気持ちになるので、「私も書いてみよう!」と思い立ちました。でも、うれしかった事はたくさんあったはずなのに、なかなかエピソードが思い浮かばず…。

日常の小さな幸せを見つける習慣を身に付けて、また投稿したいと思います!

まるで親友

鹿児島県霧島市　口町 円子さん

かれこれ、お付き合いはもう43年。いつの頃からか、喜びのタネまき新聞が何よりの楽しみになりました。励ましてくれたり、心を和ませてくれたり。私にとっては、親友のような存在です!

親子で愛読

岐阜県下呂市　長江 奈香さん

母の闘病中、母が好きそうな本や雑誌を必死に探して差し入れしていました。そのなかで何気なく持っていったのが、喜びのタネまき新聞。旅好きで、日々の暮らしを大切にしてきた母には、好みにどんぴしゃだったようで、「たくさんの人に出会ったような気持ちになる新聞やね」とつぶやいていました。

母が亡くなった後も、その言葉はずっと胸に残っています。そして毎月届く新聞を、心のなかにいる母と一緒にゆっくり読んでいます。

on 50th Anniversary, Thank you so much for reading.

おかげさまで創刊50周年

「喜びのタネまき新聞」は、ダスキン創業者・鈴木清一が「心ほのぼのとする新聞を作りたい」との思いで、昭和46年（1971年）7月1日に創刊し、おかげさまで50年を迎えることができました。今日までご愛読いただいている多くのお客様に、深く御礼申し上げます。

読者の皆様から「いつも楽しみにしています」「今までの新聞も大切に保管しています」などの言葉をいただくことがあり、とてもうれしく思っています。その反面、私が普段の生活で感じた事をありのままに書いているので、このような内容で良いのかな？と心配になることもあります。

社長として、会社の経営や事業方針の策定、加盟店の方々への情報発信などさまざまな業務がありますが、この「喜びのタネまき新聞」の執筆は頭を悩ませる時間の一つです。

いつも身の回りで感じた事を書いているのですが、話題にできるような出来事が常にあるわけではなく、日頃から意識して小さな事にも興味を向けるようにしています。すると、季節の移り変わりや通勤時の出来事など、今まで何とも感じなかった日常が違う景色に見えるようになり、加盟店オーナーとの対話の中での気づきが増えるなど、さまざまな場面での感じ方が変わってきたと感じています。

執筆はプレッシャーではありますが、「お客様にお届けしなければ」という気持ちが視野を広くしていると思います。大げさですが何事も「やらなければならない」と思うと自然と視野が広がり、感受性も豊かになっていくのではないでしょうか。

これからも「心ほのぼのとする新聞」の基本を忘れずに、読者の皆様のお顔を思い浮かべながらお届けしていきたいと思っています。

毎号、手に取ってお読みいただき、改めて感謝申し上げます。

株式会社ダスキン社長
山村輝治

喜びのタネまき新聞 no.523

株式会社 ダスキン
発行・編集：広報部　〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様の個人情報はご投稿の掲載や、今後の紙面制作に利用させていただきます。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記の株式会社ダスキン コンタクトセンターまでご連絡ください。

0120-100100　www.duskin.co.jp
60-4C　2021.6　3399500